

22 旅館・ホテル・宿泊所

【関連章第7章4】

事例1 「浴室内に設置されたサウナヒータに濡れた靴が落下したため出火した火災」

出火時分 6月 12時ごろ
用途等 ホテル 耐火造 6/1 延2,000㎡
防火管理 該当 選任あり 消防計画あり
被害状況 建物ぼや1棟 サウナヒータ1台等焼損
概要

この火災は、ホテル2階の浴室内から出火したものです。

出火原因は、宿泊客が濡れた靴を乾かそうと浴室内に設置されたサウナヒータの外枠に乗せていたところ、サウナヒータ上に靴が落下し出火したものです。

従業員は、清掃中に臭気を感じ屋外に出て確認していたところ、換気口から煙が出ているのを発見し、ホテルフロントへ戻り、臭気と煙を確認したことを別の従業員へ知らせました。

知らせを受けた従業員は、粉末消火器を持って煙の出ている客室に向かい内部を確認すると、サウナ室の小窓から炎と煙を確認したので、持ってきた粉末消火器で初期消火を実施し、さらに浴槽内の水をかけて消火しました。

教訓等

ホテルには従業員の目が届きにくい場所があり、ホテル側が適切に管理していても、さまざまな要因による火災の危険が潜んでいます。

火災に至る要因を事前に無くすことや、万が一火災になってしまった場合に早期発見できる体制を整え、迅速な通報及び初期消火方法を確認しておくことが被害の拡大防止につながります。出火防止について注意喚起をすることやホテル内のルールについて周知することも大切です。



写真 22-1 焼損したサウナヒータの状況



写真 22-2 焼損した靴の状況